

町長の
まち・ひと・しごと
魅力発信

～ 事業所訪問 vol.25 ～

「明光ダイカスト工業 株式会社」

町内には、優れた技術を持った会社が多く存在します。事業所の持つ技術や魅力を町長自ら訪問して、目で見て、お話を伺い、住民に情報発信する「事業所訪問」を連載します。

町長の見て・聞いて・話して

第25回の事業所訪問は、2月13日に下小鹿野の明光ダイカスト工業株式会社を訪問し、岡本浩一郎社長にお話を伺いました。

明光ダイカスト工業株式会社は、昭和53年(1978年)に個人事業として和田地内で創業し、平成元年(1989年)に明光ダイカスト工業株式会社を設立しました。その後、平成11年(1999年)に現在の下小鹿野に工場を移転されました。社名の「明光」は、創業当初に前社長(岡本好浩会長)がお世話になっていた明治ダイカスト工業株式会社の社名の一文字「明」を引き継ぎ「明光ダイカスト工業」の社名を付けたとのことでした。

案内していただいた会社の敷地内には、事務所棟、鋳造工場、検査棟、倉庫がありました。鋳造工場は、手元炉により溶融金属を過熱し、溶解して鋳造が行われておりました。そのため、各小型な手元炉では、異種材への迅速な切り替え対応ができる為、多品種、小ロットの製品を提供することが可能になっているとのことでした。

主に扱っているダイカスト製品は、ヒドロ材(特殊アルミ合金)を使用し、高い強度と高い寸法精度、美しく平滑な鋳肌仕上がりで、オートバイのハンドル周りの部品や自動車のワイパー部品、建築関連部品など多岐にわたる部品を製造しておりました。

鋳造工場に隣接して建てられている検査棟には、200種類以上のダイカスト製品が保管・整理されており、

一つひとつ丁寧に手作業で各種検査機器を使い、検査と袋詰めが行われておりました。また、多種多品種の商品の管理と納品管理が徹底されておりました。



ダイカスト製品の 手元炉の前で原材料の説明を受ける森町長

▶オートバイ部品の説明を受ける森町長



モノづくりにおいては、製法の奥深さ、使用用途の可能性、その魅力は尽きることがないと社長は仰っております。20年に亘り培ってきた得意分野のヒドロ材の特殊鋳造法による鋳巣低減、高品質なダイカスト製品は安全性も高く、業界でもトップクラスの技術を有する企業であると感じました。

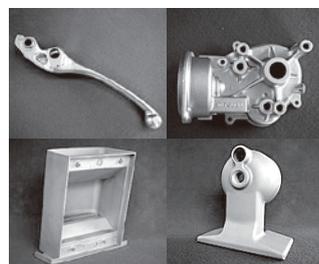
わが社の主力製品

製造しているダイカスト製品の大半がオートバイ関連の部品で、主にハンドル部分の部品です。

お客様が直接製品に触れ、目で見ることのできる製造している各種ダイカスト製品商品でありますので、仕上げ加工は、協力会社と連携して、金型製作から各種表面処理(光沢バレル、マルマイト、塗装、メッキ)まで一貫生産管理がされ、安全で高品質なダイカスト製品として信頼を得ています。

ここに自信あり

1978年創業以来ダイカストを主として、合金加工形成の技術を磨き、より良い製品を造る喜びと楽しさを従業員と共有し、会社と従業員が一丸となって、より良いモノを提案し続けています。改善努力を重ねながら、「すべてのお客様に喜ばれるモノづくり」をモットーに、これからもお客様から信頼され必要とされるダイカスト企業を目指してまいります。



製造している各種ダイカスト製品



岡本社長(左)

会社概要

代表者 代表取締役社長 岡本浩一郎

従業員数 22名

創業 1978年1月

所在地 小鹿野町下小鹿野954

電話 0494-75-3391